

都市再生整備計画事業 事後評価シート
犬山駅周辺地区

令和6年2月

愛知県犬山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	犬山市	地区名	犬山駅周辺地区			面積	152ha					
交付期間	平成31年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	219.9百万円	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名												
		基幹事業	市民交流センター整備事業、景観形成助成事業、歴史的風致形成建造物保存修理事業											
	提案事業	既存建造物活用促進事業(社会福祉協議会、観光協会等)												
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業												
	新たに追加した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> 犬山駅西駅前広場整備事業(情報板) 市道犬山395号線歩道設置整備事業(情報板) 犬山駅西駅前広場整備事業(緑地施設等、歩行者支援) 市道犬山395号線歩道設置整備事業(緑地施設等、歩行者支援) 彩雲橋公衆便所改築事業(歩行者支援) 			<ul style="list-style-type: none"> 観光客等の歩行者に対する快適・便利な駅前空間の構築のため 木曾川河畔の居心地の良い歩行空間の形成のため 観光客等の歩行者に対する快適・便利な駅前空間の構築のため 木曾川河畔の居心地の良い歩行空間の形成のため 			<ul style="list-style-type: none"> 数値を変更するほどの影響はなし 「犬山遊園駅の年間乗降客数」の数値目標を追加 数値を変更するほどの影響はなし 「犬山遊園駅の年間乗降客数」の数値目標を追加 数値を変更するほどの影響はなし 					
提案事業		木曾川河畔歩行空間活用促進事業			木曾川河畔の居心地の良い歩行空間の形成のため			数値を変更するほどの影響はなし						
交付期間の変更	当初	平成31年度～令和5年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	交流施設の利用率	%	30	H29	40	R5	-	31	△	あり	交流施設(市民交流センター「フロイデ」)の利用率は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少傾向が見られるが、令和4年度には従前値と同程度まで回復している。ただし、令和5年4月～10月の利用率は伸び悩んでおり、目標値の達成は難しい。	R6	
	指標2	市民活動参加意向	%	66	H30	70	R5	-	53	×	あり	市民活動参加意向は、従前値である平成30年度から評価値である令和5年度に向けて減少している。指標1交流施設の利用率が伸び悩んでいることを踏まえると、市民活動の減少に伴い、その意向も減少していると考えられる。	なし	
	指標3	観光客の城下町への再来訪意向	%	86	H30	90	R5	-	100	○	あり	犬山駅西駅前広場の整備や、城下町周辺の市道犬山395号線、城前線の整備、歴史あるまちなみの保存及び修理に向けた事業の継続により、着実に観光客の再来訪意向は向上している。	なし	
指標4	犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	412	H30	422	R5	-	245	×	あり	犬山遊園駅の年間乗降客数は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少が見られる。令和3年度以降からは回復傾向が見られるが、令和4年度も従前値の半数程度までしか回復していない。今後の観光客の動向にもよるが、目標値の達成は難しい。	R6		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
その他の数値指標1	/													
その他の数値指標2	/													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 当事業で整備した市道犬山395号線の歩道部分は道路区域から外し、イベント等の利活用が可能となった。 市民交流センター「フロイデ」内に子育て支援施設を移転することで、子育て支援施設と公共施設をつなぐネットワークが構築された。 犬山市協働プラザ「わんまる一む」における市民活動等の積極的な活用が確認された。 													
5)実施過程の評価	実施内容													
	モニタリング	なし	実施状況			<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						今後の対応方針等		
	官民連携による取組状況	木曾川河畔空間の整備に向けたワークショップの実施	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 			<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						木曾川河畔の具体的な整備に向けて、活動を継続する。		
	持続的なまちづくり体制の構築	市民交流センターフロイデ内に整備した犬山市協働プラザ「わんまる一む」での市民参画によるまちづくり等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 			<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						引き続き「わんまる一む」での市民参画による取組みを継続する。		

様式2-2 地区の概要

犬山駅周辺地区都市再生整備計画事業(愛知県犬山市)の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
城下町地区の観光振興と市民活動と多彩な交流促進によるコンパクトな市街地形成を実現する都市拠点の形成 目標1: 市民主体のまちづくり活動の充実やインバウンドの増加に対応した交流拠点づくり 目標2: 城下町地区と木曾川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を活かしたまちの継続的発展	交流施設の利用率	単位: %	30	H29	40	R5	31	R4
	市民活動参加意向	単位: %	66	H30	70	R5	53	R5
	観光客の城下町への再来訪意向	単位: %	86	H30	90	R5	100	R5
	犬山遊園駅の年間乗降客数	単位: 千人	412	H30	422	R5	245	R4

■ 基幹事業: 地域生活基盤施設、高質空間形成施設
・市道犬山395号線歩道設置整備事業

□ 提案事業 (地域創造支援事業)

■ 基幹事業: 既存建造物活用事業 (高次都市施設・地域交流センター)
・市民交流センター整備事業
□ 提案事業: 既存建造物活用促進事業

■ 基幹事業: 地域生活基盤施設、高質空間形成施設
・犬山駅西駅前広場整備事業

◆ 関連事業: 市道城前線道路整備事業

■ 基幹事業: 街なみ環境整備事業
・景観形成助成事業
・歴史的風致形成建造物保存修理事業

◆ 関連事業: 効果促進事業
・事業効果分析調査

凡例
■ 基幹事業
□ 提案事業
◆ 関連事業

計画区域 (152ha)
犬山駅周辺地区 (都市再生整備計画区域)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> □ 市民活動等の活性化・多様化に対応した活動拠点・交流拠点の整備により、市民の新たな活動・交流拠点となる市民交流センター「フロイデ」を整備した。 □ この5年間で、犬山城下町における歴史あるまちなみの保存及び修理が14棟実施された。 □ 中心市街地に市民交流センター「フロイデ」を整備し、同施設内に子育て支援施設(教育支援センターゆうゆう等)を移転することで、子育て支援施設や公共施設をつなぐネットワークが構築された。 □ 市道犬山395号線の整備や犬山駅西側の駅前広場の整備により、歩行者の安全性に配慮した歩行空間を創出している。 □ 木曾川河畔の自然資源を活用した空間整備に向けて、地域住民や観光事業者等と協働した河畔空間の使い方を検討し社会実験を実施した。 □ 中心市街地に立地する、犬山駅西側の駅前広場において、歩道整備や情報板、ベンチの設置等を実施し、利用環境を向上させた。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> □ 観光客の快適性や利便性向上に向けた整備→これまでの観光地としての環境整備の継続による快適性及び利便性向上が必要【○景観形成・歴史的風致形成の継続 等】 □ 市民交流センター「フロイデ」の利用促進と市民の日常的な交流機会の創出に向けた取組の実施→既存ストックを有効活用し公園等の都市機能を充実させ、市民の交流機会の創出及び良好な居住環境の形成に向けた取組が必要【○既存住宅地における公園整備事業 等】 □ 観光客の公共交通の利用を促進し犬山遊園駅の乗降客数を増加させるための取組の実施→犬山遊園駅と城下町をつなぐ木曾川河畔の河川空間をウォーカブルな空間として活用し、観光客の公共交通利用の促進及び滞在快適性を向上に向けた取組が必要【○木曾川河畔空間における歩行空間整備】

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		<ul style="list-style-type: none"> 交流施設の利用率 市民活動参加意向 観光客の城下町への再来訪意向 	<ul style="list-style-type: none"> 交流施設の利用率 市民活動参加意向 観光客の城下町への再来訪意向 犬山遊園駅の年間乗降客数 	・城下町と犬山遊園駅をつなぐ木曾川河畔の居心地の良い歩行空間の形成に向けた事業を追加したため
C. 目標値	●		<ul style="list-style-type: none"> 交流施設の利用率…40% 市民活動参加意向…70% 観光客の城下町への再来訪意向…90% 	<ul style="list-style-type: none"> 交流施設の利用率…40% 市民活動参加意向…70% 観光客の城下町への再来訪意向…90% 犬山遊園駅の年間乗降客数…422千人 	・城下町と犬山遊園駅をつなぐ木曾川河畔の居心地の良い歩行空間の形成に向けた事業を追加したため
D. その他		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設(広場)									
地域生活基盤施設(駐車場)									
地域生活基盤施設(情報板)	犬山駅西駅前広場整備事業(情報板)	-	-	0.9	1箇所	犬山駅を利用する観光客等の歩行者が、快適かつ便利に利用できる駅前空間を構築するため事業を追加	影響なし	●	
地域生活基盤施設(情報板)	市道犬山395号線歩道設置整備事業(情報板)	-	-	0.4	1箇所	城下町と木曾川河畔のネットワーク・利便性を強化し、居心地の良い歩行空間を形成するため、事業を追加	「犬山遊園駅の年間乗降客数」の数値目標を追加	●	
高質空間形成施設(休憩施設)									
高質空間形成施設(緑地施設等、歩行者支援)	犬山駅西駅前広場整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	-	-	82.6	A=1350㎡	犬山駅を利用する観光客等の歩行者が、快適かつ便利に利用できる駅前空間を構築するため事業を追加	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑地施設等、歩行者支援)	市道犬山395号線歩道設置整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	-	-	32.4	L=120m	城下町と木曾川河畔のネットワーク・利便性を強化し、居心地の良い歩行空間を形成するため、事業を追加	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高質空間形成施設(歩行者支援施設)	彩雲橋公衆便所改築事業(歩行者支援)	-	-	29.9	1箇所	城下町と木曽川河畔のネットワーク・利便性を強化し、居心地の良い歩行空間を形成するため、事業を追加	「犬山遊園駅の年間乗降客数」の数値目標を追加	●	
高次都市施設(観光交流センター)									
高次都市施設(地方都市リノベーション事業)									
地方都市リノベーション推進施設									
既存建造物活用事業	市民交流センター整備事業	120.0	868㎡	171.2	868㎡	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	景観形成助成事業	20.0	-	18.7	10棟	事業箇所数の変更	影響なし	●	
街なみ環境整備事業	歴史的風致形成建造物保存修理事業	50.0	-	14.1	4棟	事業箇所数の変更	影響なし	●	
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無		
			基準 年度		基準 年度		基準 年度		モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	交流施設の利用率	%	市民活動、交流活動等で利用される会議室、多目的室等の平均利用率			30	H29	40	R5	モニタリング	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定 見込み ●	31	事後評価		
指標2	市民活動参加意向	%	市民意識調査に基づく市民の市民活動への参画意向の割合			66	H30	70	R5	モニタリング	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 見込み ●	53	事後評価		
指標3	観光客の城下町への再来訪意向	%	城下町来訪者へのアンケート調査に基づく再来訪意向の割合			86	H30	90	R5	モニタリング	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 見込み ●	100	事後評価		
指標4	犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	犬山遊園駅の年間乗降客(定期利用者を除く)の数			412	H30	422	R5	モニタリング	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定 見込み ●	245	事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	コロナ禍直後には減少傾向が見られ、近年は従前値と同等程度の水準まで回復しているが、令和5年4月～10月の利用率を考慮すると、1年以内の達成見込みは難しいと考えられる。	コロナ禍によってオンライン形式による会議等の開催が主流となり、現時点においてもオンライン形式での開催が見受けられることから、利用率が伸び悩んでいると考えられる。
指標2	実際に市民活動が行われる施設(市民交流センター「フロイデ」)の利用率の伸び悩みに伴い、市民活動参加意向も減少している。	コロナ禍により、市民活動自体が減少したことが影響していると考えられる。
指標3	旅行者の快適性や利便性に資する事業、歴史あるまちなみの保存及び修理に向けた事業の実施により目標を達成している。	特になし
指標4	コロナ禍直後には急激な減少傾向が見られており、近年は回復傾向が見られるが、現況では目標値の半分程度までしか回復していない。犬山遊園駅は観光客の増減の影響を受けやすいことも踏まえると、今後の観光客の動向にもよるが、1年以内の達成見込みは難しいと考えられる。	特になし
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
		基準年度	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標2						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標3						モニタリング		
						事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・当事業で整備した市道犬山395号線の歩道部分は道路区域から外し、イベント等の利活用が可能となった。
- ・市民交流センター「フロイデ」内に子育て支援施設を移転することで、子育て支援施設と公共施設をつなぐネットワークが構築された。
- ・犬山市協働プラザ「わんまる一む」における市民活動等の積極的な活用が確認された。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 当初実施を予定していたが、コロナ禍の影響を受け中止。)	●	
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
木曽川河畔空間の整備に向けたワークショップの実施	予定どおり実施した	河畔deカタリーヴァ	木曽川河畔の具体的な整備に向けて、活動を継続する。
	予定はなかったが実施した	● 木曽川河畔空間整備に向けて、市、地域住民、観光事業者等により、河畔空間の使い方や整備方針に関するワークショップ、社会実験を実施し、「木曽川河畔空間整備基本構想」をとりまとめた。	
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
市民交流センターフロイデ内に整備した犬山市協働プラザ「わんまる一む」での市民参画によるまちづくり等の実施	予定どおり実施した	● 市民活動や地域活動などの公益的活動の支援・促進及び多様な主体の協働を推進する拠点として「わんまる一む」を運営する	いぬやま協働まちづくりコンソーシアム ジョインいぬやま	引き続き「わんまる一む」での市民参画による取組みを継続する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画検討会議	整備課、観光課、地域協働課、 歴史まちづくり課、都市計画課	令和5年12月	都市計画課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3					
指標名		観光客の城下町への再来訪意向					
種別	事業名・箇所名	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見	指標改善への 貢献度	総合所見
基幹事業	犬山駅西駅前広場整備事業(情報板)	◎	犬山駅西駅前広場の整備や、 城下町周辺の市道犬山395号 線、城前線の整備、歴史ある まちなみの保存及び修理に向 けた事業の継続により、着実 に観光客の再来訪意向は向上 している。				
	市道犬山395号線歩道設置整備事業(情報板)	◎					
	犬山駅西駅前広場整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	◎					
	市道犬山395号線歩道設置整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	◎					
	彩雲橋公衆便所改築事業(歩行者支援)	◎					
	市民交流センター整備事業	-					
	景観形成助成事業	◎					
提案事業	既存建造物活用促進事業(社会福祉協議会、観光協会等)	-					
	高質空間形成施設事業(木曾川河畔歩行空間活用促進事業)	○					
関連事業	効果促進事業	-					
	市道城前線道路整備事業	◎					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光客の快適性や利便性向上、歴史あるまちなみの保存及び修理に向けた整備を引き続き実施する。		
-------	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標4		
指標名		交流施設の利用率			市民活動参加意向			犬山遊園駅の年間乗降客数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	犬山駅西駅前広場整備事業(情報板)	-	交流施設(市民交流センター「フロイデ」)の利用率は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少傾向が見られるが、令和4年度には従前値と同等程度まで回復している。ただし、令和5年4月～10月の利用率は伸び悩んでおり、目標値の達成は難しい。	Ⅲ	-	市民活動参加意向は、従前値である平成30年度から評価値である令和5年度に向けて減少している。指標1交流施設の利用率が伸び悩んでいることを踏まえると、市民活動の減少に伴い、その意向も減少していると考えられる。	Ⅲ	-	犬山遊園駅の年間乗降客数は、コロナ禍直後の令和2年度に急激な減少が見られる。令和3年度以降からは回復傾向が見られるが、令和4年度も従前値の半数程度までしか回復していない。今後の観光客の動向にもよるが、目標値の達成は難しい。	Ⅲ
	市道犬山395号線歩道設置整備事業(情報板)	-								
	犬山駅西駅前広場整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	-								
	市道犬山395号線歩道設置整備事業(緑地施設等、歩行者支援)	-								
	彩雲橋公衆便所改築事業(歩行者支援)	-								
	市民交流センター整備事業	△								
	景観形成助成事業	-								
	歴史的風致形成建造物保存修理事業	-								
提案事業	既存建造物活用促進事業(社会福祉協議会、観光協会等)	△			△			-		
	高質空間形成施設事業(木曽川河畔歩行空間活用促進事業)	-			△			△		
関連事業	効果促進事業	-			-			-		
	市道城前線道路整備事業	-			-			△		

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>今後のコロナ収束とともに、市民の交流活動も増加すると見込まれるため、徐々に利用率も増加することが期待される。ただし、令和5年4月～10月の利用率が伸び悩んでいることを踏まえると、市民交流センター「フロイデ」の利用促進に向けた取組を実施するとともに、市民の日常的な交流機会の創出に向けた取組が必要となる。</p>	<p>評価値53%は、犬山市全域を対象とした市民活動参加意向を表す。一方、市民交流センター「フロイデ」の周辺(犬山北小学校、犬山南小学校、犬山西小学校)に居住する回答者を抽出し市民活動参加意向を集計すると57%となり、市全域の市民活動参加意向よりも高いことが分かった。このことから、「フロイデ」の整備のような市民活動参加のきっかけづくりとなる取組みは、周辺住民の市民活動参加意向の向上に寄与することが考えられるため、今後も引き続き市民活動のきっかけづくりに向けた取組が必要となる。</p>	<p>今後のコロナ収束とともに、犬山城下町等への観光客も増加すると見込まれるため、徐々に乗降客数も増加することが期待される。ただし、令和4年度で従前値の半数程度までしか回復していないことを踏まえると、乗降客数の回復を待つだけでなく、観光客の公共交通利用促進に向けた取組が必要となる。</p>
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画検討会議	整備課、観光課、地域協働課、歴史まちづくり課、都市計画課	令和5年12月	都市計画課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市民活動等の活性化・多様化に対応した活動拠点・交流拠点の確保	本事業の実施により、市民の新たな活動・交流拠点となる市民交流センター「フロイデ」を整備した。	特になし	市民交流センター「フロイデ」の利用率については伸び悩んでいる。
城下町地区における民間主導による景観形成や歴史的建築物の保存修理等を継続して実施すること	犬山城下町における歴史あるまちなみの保存及び修理が14棟実施された。	特になし	特になし
中心市街地に子育て支援施設・公共施設の整備とあわせて、これらが活用できるネットワークの構築	中心市街地に市民交流センター「フロイデ」を整備し、同施設内に子育て支援施設(教育支援センターゆうゆう等)を移転することで、子育て支援施設や公共施設をつなぐネットワークが構築された。	引き続き、子育て支援施設や公共施設をつなぐネットワークを強化する必要がある。	特になし
安心して歩ける歩行者空間の確保	市道犬山395号線整備や犬山駅西駅前広場の整備により、歩行者の安全性に配慮した歩行空間を創出している。今回整備した市道犬山395号線の歩道部分は道路区域から外し、イベント等の利活用が可能となった。	特になし	特になし
市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくり	木曾川河畔の自然資源を活用した空間整備に向けて、地域住民や観光事業者等と協働した河畔空間の使い方の検討を実施した。	特になし	特になし
既成市街地外縁部及び中心市街地の双方において駅・バス停周辺の環境整備を一層推進する	中心市街地に立地する犬山駅西側の駅前広場において、歩道整備や情報板、ベンチの設置等を実施し、利用環境を向上させた。	既成市街地外縁部においては、引き続き駅・バス停周辺の環境整備の推進が必要となる。	特になし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	観光客の快適性や利便性向上に向けた整備	これまでの観光地としての環境整備の継続による快適性及び利便性向上が必要となる	〇景観形成・歴史的風致形成の継続

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	市民交流センター「フロイデ」の利用促進と、市民の日常的な交流機会の創出に向けた取組の実施	既存ストックを有効活用し公園等の都市機能を充実させ、市民の交流機会の創出及び良好な居住環境の形成に向けた取組が必要となる	〇既存住宅地における公園整備事業
観光客の公共交通利用促進に向けた取組の実施	犬山遊園駅と城下町をつなぐ木曾川河畔の河川空間をウォークアブルな空間として活用し、観光客の公共交通利用の促進及び滞在快適性を向上に向けた取組が必要となる	〇木曾川河畔空間における「居心地が良く歩きたくなる」歩行空間の整備	

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・今回、目標達成が難しいとする評価となった「犬山遊園駅の年間乗降客数」について、次期計画における指標とする場合、どのように取り扱うか。
- ・犬山遊園駅の年間乗降客数の増加に向けた取組み等について。
- ・犬山駅周辺の都市計画道路における未整備路線の今後の要望について。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	交流施設の利用率	%	30.0	H29	40.0	R5	確定	31.1	△	あり	●	R6.7	市民交流センター「フロイデ」内の施設のうち、貸館として市民が利用可能な会議室やホール等(午前、午後、夜間の3区分で貸出)の利用実績より、令和5年度の貸館全体の稼働率を算出する。	
							見込み ●			なし				
指標2	市民活動参加意向	%	66	H30	70	R5	確定 ●	53	×	あり	●			
							見込み			なし				
指標3	観光客の城下町への再来訪意向	%	86	H30	90	R5	確定 ●	100	○	あり	●			
							見込み			なし				
指標4	犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	412	H30	422	R5	確定 ●	245	×	あり	●	R6.7	令和5年度の年間利用者数(定期利用者を除く)を集計したデータを鉄道事業者より提供を受ける。	
							見込み			なし				
指標5							確定			あり	●			
							見込み			なし				
その他の数値指標1							確定			あり	●			
							見込み			なし				
その他の数値指標2							確定			あり	●			
							見込み			なし				
その他の数値指標3							確定			あり	●			
							見込み			なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	【指標3 観光客の城下町への再来訪意向】については、目標を達成した。	新型コロナウイルスの影響については、今後も継続すると見込まれるため、それを念頭に置きつつ指標等を検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	【指標1 交流施設の利用率】、【指標2 市民活動参加意向】、【指標4 犬山遊園駅の年間乗降客数】については、目標を達成できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	木曽川河畔空間整備事業について、市、地域住民、観光事業者等が協働し、河畔空間の使い方や整備方針に関するワークショップ、社会実験を実施できた。	
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	木曽川河畔については、PDCAサイクルに則り、P(Plan)となる取組み(住民参加ワークショップ(河畔deカテリーヴァ))、D(Do)となる取組み(河畔空間活用に向けた社会実験)、C(Check)となる取組み(ワークショップでの社会実験の振り返り)、Aとなる取組み(木曽川河畔空間整備基本構想の取りまとめ)を、一通り実施できた。	引き続き、木曽川河畔空間の活性化に向けた取組みを推進する。
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(仮)犬山市都市拠点地区都市再生整備計画

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和5年12月11日～ 令和6年1月5日	令和5年12月11日～ 令和6年1月5日	都市計画課を受付窓口とし、意見書・電子メール・ファックスによる意見を受け付ける。	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報犬山に公表方法等掲載	広報12月号に公表方法等掲載	なし		
説明会・ワークショップ	なし	なし	なし		
その他	市役所・各出張所等にて閲覧	令和5年12月11日～ 令和6年1月5日	令和5年12月11日～ 令和6年1月5日		

住民の意見	<p>1人の方から下記のご意見が寄せられた。</p> <p>駅西信号交差点地下道の見直し。 地下道の老朽化を機に撤去を提案します。 歩道を広げ、信号はスクランブルにする。 駅前には犬山の表玄関、もっとキレイに高齢者に優しい街づくりをお願いします。 一度地下道の利用率を調査してみてもは。</p>
-------	---

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岡田 和明(名古屋経済大学 地域連携センター長)	令和6年1月18日	都市計画課	・犬山市附属機関条例 ・犬山市都市再生整備計画評価委員会規則	-
その他の委員	松田 昇平(犬山市観光協会) 松浦 恵子(いぬやま協働まちづくりコンソーシアム ジョインいぬやま第Ⅱ期) 尾関 謙治(名古屋鉄道株式会社) 長谷川 良夫(犬山城下町を守る会)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に基づいて事後評価手続きが実施されたことを確認した。
	成果の評価	成果の評価内容は適切であると確認した。なお、数値目標を達成できなかった指標であっても、定性的な評価が得られたことを確認した。また、達成できた指標については、過年度からの継続事業により高い評価が得られたことを確認した。
	実施過程の評価	適切に実施されたことを確認した。
	効果発現要因の整理	適切に実施されたことを確認した。なお、数値目標を達成できなかった指標について、改善の方針が妥当であることを確認した。
	事後評価原案の公表の妥当性	適切に実施されたことを確認した。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは適切に実施されたことを確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	今後のまちづくり方策の整理内容は適切であることを確認した。
	フォローアップ	評価値が確定値ではない指標について、次年度にフォローアップを実施することが適切であることを確認した。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は適切であることを確認した。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第5回変更)

いぬやまえきしゅうへんちく
犬山駅周辺地区

あいち いぬやま
愛知県 犬山市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	犬山市	地区名	犬山駅周辺地区	面積	152 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標
城下町地区の観光振興と市民活動と多彩な交流促進によるコンパクトな市街地形成を実現する都市拠点の形成
目標1: 市民主体のまちづくり活動の充実やインバウンドの増加に対応した交流拠点づくり 目標2: 城下町地区と木曾川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を活かしたまちの継続的発展

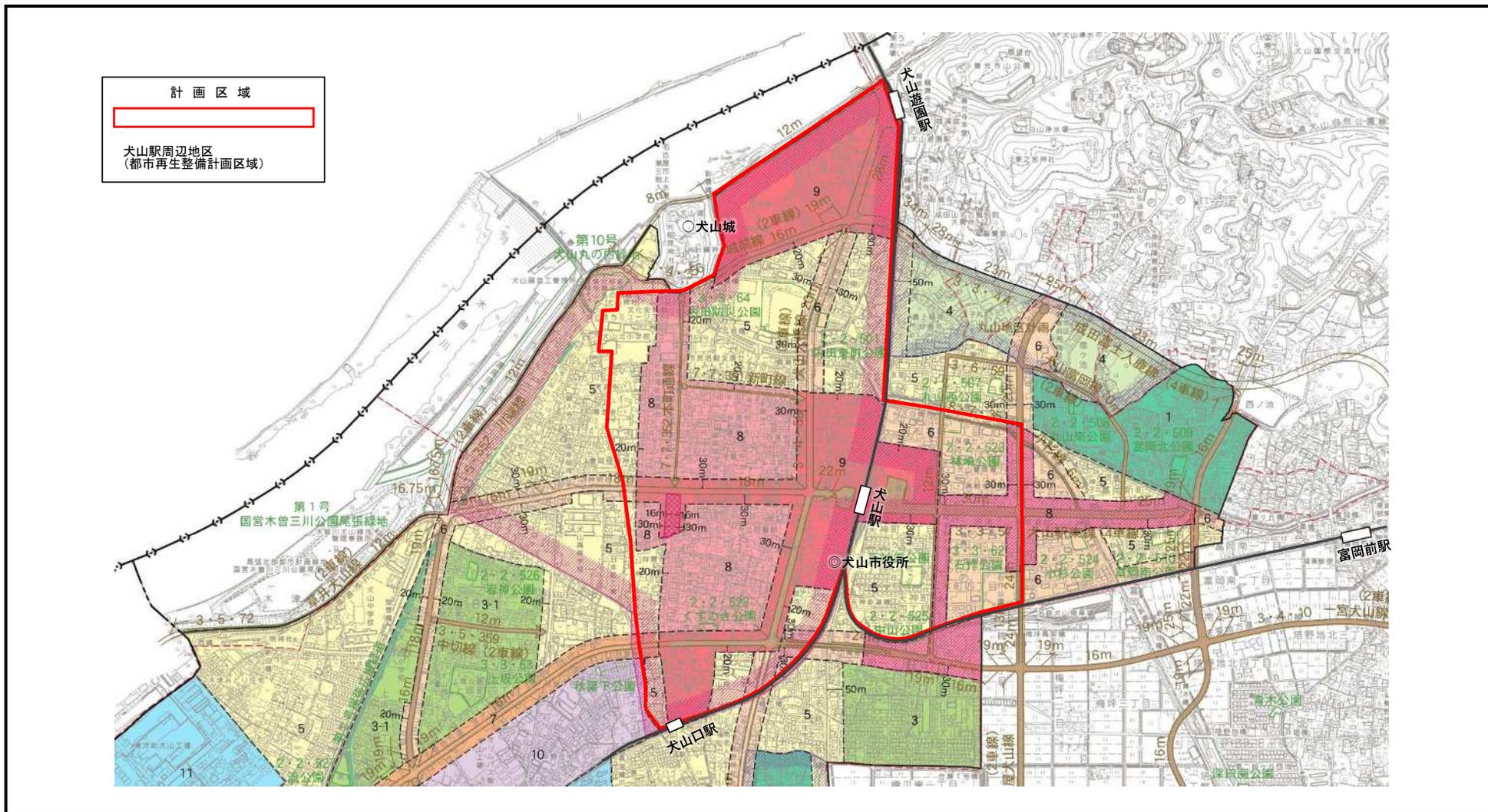
目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本地区は、犬山市北部の中心市街地に位置し、犬山駅を中心とした都市拠点を形成するとともに、駅西側の城下町では犬山城や犬山祭に代表される歴史的風致が市民活動と一体となって受け継がれている。 ・城下町地区では、平成16年度～平成20年度にまちづくり交付金事業を活用して、現道幅員まで見直しを行った都市計画道路の電線類の無電柱化、景観に配慮した美装化などのハード事業や住民と協働した賑わいのあるまちづくりに必要なソフト事業を一体的に実施した。また、平成21年3月11日には、歴史まちづくり法に基づく「犬山市歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、犬山城下町の更なる歴史的風致の維持および向上の取組みを推進するとともに、平成26年度～平成30年度に城下町地区都市再生整備計画事業により、国宝犬山城を中心とした歴史観光まちづくりによる、犬山市街地の活力向上を図ってきた。 ・一方で、散在する公共施設の低い効率性や市民活動拠点の老朽化、民間駐車場等による都市の空洞化が課題となっているほか、これまでのまちづくり展開による市民等のまちづくり活動の活発化が図られている状況にあり、都市拠点である犬山駅周辺地区の交流機能の充実と、城下町地区の更なる歴史的環境整備を図ることが求められている状況にある。 ・したがって、城下町内で老朽化が著しく景観阻害となっている福祉会館を取り壊し、その機能を駅周辺の国際観光センターに移転し、市民交流センターとして再整備することで、既存公共施設等の効果的・効率的利用を促進するほか、景観形成助成や歴史的風致形成建造物保存修理助成を実施することで、低未利用地の活用や歴史的風致形成建造物の存続を促進し、都市のスポンジ化の抑制を図り、コンパクトな市街地形成を実現する都市拠点を形成するものである。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館の老朽化・景観阻害に対応するとともに、市民活動等の活性化・多様化に対応した活動拠点・交流拠点の確保が必要である。その際、既存公共施設の効果的・効率的活用が求められる。 ・城下町地区の修景整備等により、歴史的景観形成が進んでいる中で、観光地としての魅力と住環境の更なる向上を図るため、民間主導による景観形成や歴史的建築物の保存修理等を継続して実施していく必要がある。 ・中心市街地に子育て支援施設・公共施設の整備とあわせて、これらが活用できるネットワークの構築が求められている。 ・古いまちなみなど歴史的資源はまちづくりの中で活かされていないだけでなく、徐々に失われている。中心市街地の核となる施設の整備とともに、市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。 ・中心市街地の幹線道路の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。 ・自家用車を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるよう既成市街地外縁部における生活サービス機能の確保のほか、中心市街地に集約整備する公共・公益サービスに公共交通を利用してアクセスしやすくなるよう、既成市街地外縁部及び中心市街地の双方において駅・バス停周辺環境整備を一層推進する必要がある。

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第5次犬山市総合計画 改訂版(平成29年度～平成34年度) ・重点施策1 活躍の場づくり「学びと遊びのまちへ」・・・市民が活動し交流する場づくり ・重点施策2 産業の活性化「商売繁盛のまちへ」・・・観光施設間の連携と情報発信 ・重点施策3 定住促進「多様な暮らしができるまちへ」・・・既存ストックの活用・交流の機会と場づくり ■犬山市都市計画マスタープラン中間見直し(平成29年) ・城下町地区の歴史文化と地元住民の暮らしを礎とした観光交流拠点の形成 ・都市拠点・地区拠点の形成(犬山駅周辺地区において、市役所、図書館、保健センター等の全市レベルの行政サービス機能の高い集積を活かし、全市民の生活を支える都市拠点の形成を目指す) ■犬山市歴史的風致維持向上計画 ・基本方針:「まちづくりと連携した歴史的施設及び公共施設の保全」「市民意識の向上と、歴史文化を継承する担い手の育成」「文化施設の充実」 ■犬山市公共施設等総合管理計画 ・福祉会館および国際観光センターは、すぐに施設マネジメント(施設の複合化や統廃合)が必要な施設として位置づけられている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
交流施設の利用率	%	市民活動、交流活動等で利用される会議室、多目的室等の平均利用率	市民活動及び観光振興の交流拠点として、施設の利用率の向上を図り市民および観光客等の交流の向上を図る。	30%	平成29年度	40% 令和5年度	
市民活動参加意向	%	市民意識調査にもとづく市民の市民活動への参画意向の割合	市民活動の交流拠点の整備により、市民活動への参画意向の向上を図る。	66%	平成29年度	70% 令和5年度	
観光客の城下町への再来訪意向	%	城下町来訪者へのアンケート調査に基づく再来訪意向の割合	観光客の来訪回数を増やすことで、市民・観光客との交流機会を増加する。	86%	平成30年度	90% 令和5年度	
犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	犬山遊園駅の年間乗降客(定期利用者を除く)の数	城下町と木曾川河畔エリアの回遊性向上などにより、新たな賑いの創出を図る。	412千人	平成30年度	422千人 令和5年度	

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○市民主体のまちづくり活動の充実やインバウンドの増加に対応した交流拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存公共施設を効果的・効率的に活用するとともに、既存施設の機能との相乗効果を図り、交流拠点を形成する。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民交流センター整備事業(既存建造物活用事業) <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存建造物活用促進事業
<p>○城下町地区と木曽川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を活かしたまちの継続的発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間による景観形成・歴史的建造物等の保存・修理を促進し、城下町地区の魅力と住環境の更なる向上を図る。 ・犬山駅西にホテル建設が予定されており、旅行者が快適かつ便利に利用できる駅前空間を整備する。 ・城下町と木曽川河畔を繋ぐ歩道を切れ目なく整備するなど、ネットワーク・利便性を強化し、居心地の良い歩行空間を形成する。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成助成事業(街なみ環境整備事業) ・歴史的風致形成建造物保存修理助成事業(街なみ環境整備事業) ・犬山駅西駅前広場整備事業(地域生活基盤施設、高質空間形成施設) ・市道犬山395号線歩道設置整備事業(地域生活基盤施設、高質空間形成施設) ・彩雲橋公衆便所改築事業(高質空間形成施設) <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川河畔歩行空間活用促進事業 <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道城前線道路整備事業
<p>その他</p>	
<p>○交付期間中における円滑な事業進捗と目標に向けた効果を上げるために、事業進捗に応じた適切なモニタリングを実施する。</p>	

<p>犬山駅周辺地区(愛知県犬山市)</p>	<p>面積 152 ha</p>	<p>区域 大字犬山字北古券、西古券、東古券、南古券、上切屋、末友、神ノ木、柳町、専正寺町、薬師、薬師町、木ノ下、愛宕、東畑、高見町、富士見町、北天神、西林崎、東余坂、天白、西畑、御門先、西大門先、大門先、寺下、中道、寺畑、堀ノ内、三反田、身内田、藪下、東山下、天王坂、天神町1丁目、天神町2丁目、天神町3丁目、天神町4丁目、天神町5丁目、松本町1丁目、松本町2丁目、松本町3丁目、松本町4丁目、内田東町</p>
------------------------	------------------	--



犬山駅周辺地区(愛知県犬山市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	城下町地区の観光振興と市民活動と多彩な交流促進によるコンパクトな市街地形成を実現する都市拠点の形成	代表的な指標	交流施設の利用率 (%)	30%	(H29年度)	→	40%	(R5年度)
			市民活動参加意向 (%)	66%	(H29年度)	→	70%	(R5年度)
			観光客の城下町への再来訪意向 (%)	86%	(H30年度)	→	90%	(R5年度)

